

岡山大学病院歯科系診療科等が医科系診療科等から 受けた院内紹介とそれに対する初動対応 —平成 22 年度と 23 年度を対象とした実態調査—

山中 玲子, 宇高恵美子, 吉富 愛子, 松本江里子, 曾我 賢彦, 森田 学

Survey of first dental examination system for patients referred from medicine to
dentistry in Okayama University Hospital
- FY2010 and 2011 report-

Reiko YAMANAKA, Emiko UDAKA, Aiko YOSHITOMI, Eriko MATSUMOTO, Yoshihiko SOGA, Manabu MORITA

(平成 25 年 10 月 2 日受付)

緒 言

「チーム医療」は、一人の患者に複数の医療専門職が連携して、治療やケアに当たることであり、質が高く、安心・安全な医療を求める患者・家族の声が高まる中、我が国の医療の在り方を変え得るキーワードとして注目を集めている¹⁾。厚生労働省チーム医療推進方策検討ワーキンググループは、チーム医療推進のための基本的な考え方として、「歯科医療関係職種が配置されている病院においては、口腔ケアのみならず NST や摂食・嚥下チーム、感染制御チームなど歯科医療関係職種の関与が望まれるチームへの参加など更なる医科・歯科連携を強化・推進していくことが必要であり、病院における口腔ケア、NST、摂食・嚥下、感染制御、糖尿病、緩和ケア等のチーム医療において、医科と歯科がお互いの専門性を尊重し、それぞれの専門性を最大限に活かした連携を行うこ

とで、患者中心の質の高い医療を提供することが可能となる」と述べている²⁾。

さらに、平成 24 年度診療報酬改定において、周術期における口腔機能の管理等、チーム医療の推進が重点課題の一つとなり、周術期口腔機能管理料が新設された³⁾。厚生労働省は、医科歯科連携がより一層促進されるよう制度面でも大きく舵を切り、本邦の医療の方向性を明確に示した。今後、医科歯科連携はさらに促進されると考えられ、これから迎える大きな変化に耐えうる病院歯科の体制をどのように構築していくかが問われている。病院歯科において、このような流れに的確に対応するためには、これまでに病院歯科に対して医科からどのようなニーズがあり、病院歯科においてどのように対応をしてきたか、現在までの状況を分析することは重要である。

本院では、平成 23 年 1 月より、中央診療施設に属する医療支援歯科治療部とスペシャルニーズ歯科センターが設立され、主に医科系各科と連携して診療を行っている。医療支援歯科治療部は、チーム医療を専門とし医科歯科連携を促進するた

めの歯科側の窓口・拠点としての役割が期待されている⁴⁵⁾(図1)。医療支援歯科治療部は、高度医療支援歯科部門と周術期管理歯科部門の2部門から成り、医科患者の状況に対応した専門的な歯科支援を行っている。スペシャルニーズ歯科センターは、特別支援歯科診療室心身障害者(児)歯科診療室と摂食・嚥下リハビリテーション診療室から成り、専門医による障害者の歯科治療及び摂食・嚥下障害のリハビリテーションを行っている。医療支援歯科治療部とスペシャルニーズ歯科センターが設立される前後、すなわち平成22年度と23年度の本院における医科系診療科等から歯科系診療科等への院内紹介の状況とそれに対する初動対応を明らかにし発信することは、本邦における病院歯科が医科との連携を構築あるいは推進するに当たって参考となり得る⁶⁾。

本調査研究では、平成22年度と23年度を対象とし、1. 岡山大学病院歯科系診療科等の初診患者数に占める医科系診療科等からの院内紹介患者の割合、2. 歯科系診療科等への院内紹介を行った医科系診療科等とその件数、3. 院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先、及び4. 具体的な歯科系専門診療科等の名を挙げずになされた医科系診療科等からの院内紹介に対する紹介日の対応状況を調べた。そして、これらの変化を検討し岡山大学病院歯科系診療科等が同院医科系診療科等からの院内紹介に対応するにあたり今後望まれる体制について考察した。

対象及び方法

平成22年度及び23年度に岡山大学病院歯科系診療科等を受診した患者で、初診料が算定された患者を抽出した。抽出された患者を対象に、1. 岡山大学病院歯科系診療科等の初診患者数に占める医科系診療科等からの院内紹介患者の割合、2. 歯科系診療科等への院内紹介を行った医科系診療科等とその件数、3. 院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先、4. 具体的な歯科系専門診療科等の名を挙げずになされた医科系診療科等からの院内紹介に対する初動対応状況を調査した。

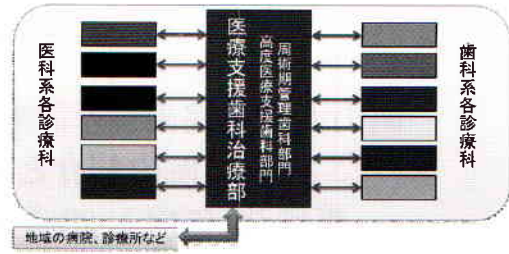


図1 医療支援歯科治療部の概念図

医療支援歯科治療部は、チーム医療を専門とし、医科で行われている医療を把握し、必要な歯科治療を機動的に行うとともに、歯科系各診療科の専門的な治療をコーディネートしている。また、地域の病院、診療所との連携窓口も担っている。

結果

1. 岡山大学病院歯科系診療科等の初診患者数に占める医科系診療科等からの院内紹介患者の割合

岡山大学病院歯科系診療科等で初診料を算定した患者件数は、平成22年度は9,606件、平成23年度は10,215件であり609件増加した。そのうち岡山大学病院医科系診療科等から歯科系診療科等へ紹介された院内紹介患者件数は、平成22年度1,377件から、平成23年度1,452件へと75件増加した。初診料が算定された患者のうち院内紹介によるものは、平成22年度は14.3%、平成23年度は14.2%でありほぼ同程度であった。

2. 歯科系診療科等への院内紹介を行った医科系診療科等とその件数

平成22及び23年度における紹介元の医科系診療科等と各々の紹介件数及び年間院内紹介患者数におけるその割合を表1に示す。

平成22及び23年度ともに、周術期管理センター(肺移植術を除く呼吸器外科手術及び消化管外科の食道手術が対象)からの紹介が最も多く、それぞれ279件(年間院内紹介件数の20.3%)、329件(年間院内紹介件数の22.7%)に及び、1年間で50件増加した。耳鼻咽喉科からは、平成22年度が140件(年間院内紹介件数の10.2%)であり、平成23年度は133件と微減した(年間院内紹介件数の9.2%)。心臓血管外科と循環器内科からの紹介は、平成22年度がそれぞれ87件(年間

表1. 紹介元診療科等と紹介件数及び年間院内紹介患者数におけるその割合

紹介元診療科等	平成 22 年度		平成 23 年度	
	患者数 (人)	割合 (%)	患者数 (人)	割合 (%)
周術期管理センター	279	(20.3)	329	(22.7)
耳鼻咽喉科	140	(10.2)	133	(9.2)
神経内科	79	(5.7)	98	(6.7)
循環器内科	81	(5.9)	81	(5.6)
血液・腫瘍内科	62	(4.5)	69	(4.8)
消化器内科	55	(4.0)	68	(4.7)
心臓血管外科	87	(6.3)	62	(4.3)
呼吸器・アレルギー内科	56	(4.1)	56	(3.9)
脳神経外科	49	(3.6)	55	(3.8)
腎臓・糖尿病・内分泌内科	54	(3.9)	52	(3.6)
救急科	28	(2.0)	39	(2.7)
消化管外科	31	(2.3)	35	(2.4)
産科婦人科	22	(1.6)	33	(2.3)
精神科神経科	32	(2.3)	33	(2.3)
小児科	45	(3.3)	32	(2.2)
整形外科	25	(1.8)	31	(2.1)
泌尿器科	18	(1.3)	30	(2.1)
乳腺・内分泌外科	24	(1.7)	29	(2.0)
保健管理センター			29	(2.0)
皮膚科	44	(3.2)	28	(1.9)
リウマチ・膠原病内科	29	(2.1)	28	(1.9)
呼吸器外科	15	(1.1)	24	(1.7)
総合診療内科	23	(1.7)	20	(1.4)
小児神経科	32	(2.3)	19	(1.3)
肝胆膵外科	12	(0.9)	13	(0.9)
麻酔科蘇生科	13	(0.9)	9	(0.6)
放射線科	10	(0.7)	5	(0.3)
形成外科	15	(1.1)	4	(0.3)
眼科	6	(0.4)	3	(0.2)
空白	11	(0.8)	5	(0.3)
計	1,377	(100)	1,452	(100)

内紹介件数の6.3%)と81件(年間院内紹介件数の5.9%)、平成23年度はそれぞれ62件(年間院内紹介件数の4.3%)と81件(年間院内紹介件数の5.6%)であり、循環器系の2診療科で平成22年度は168件(年間院内紹介件数の12.2%)、平成23年度は143件(年間院内紹介件数の9.8%)を占めた。

3. 院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先

平成22及び23年度における院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先を表2に

示す。

平成22及び23年度ともに、具体的な歯科系専門診療科等の名を挙げず、電子カルテの院内紹介テンプレートで「歯科(紹介)」を選択して紹介がなされるケースが最も多く、平成22年度は418件に及び年間院内紹介件数の30.4%に上ったが、平成23年度は30件減少し389件(年間院内紹介件数の26.8%)となった。

具体的に歯科系専門診療科等の名を挙げて紹介されるケースでは、平成22年度は周術期管理センター(歯科部門)が最も多く、口腔外科(再建系)、第1総合診療室の順で紹介が多く、これ

表2. 院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先

紹介先診療科等	平成22年度		平成23年度	
	患者数(人)	割合(%)	患者数(人)	割合(%)
歯科(紹介)	418	(30.4)	389	(26.8)
周術期管理センター(歯科部門)	336	(24.4)	331	(22.8)
第1総合診療室	161	(11.7)	—	—
スペシャルニーズ歯科センター	(未設置)		209	(14.4)
医療支援歯科治療部	(未設置)		174	(12.0)
口腔外科(再建系)	171	(12.4)	156	(10.7)
小児歯科	64	(4.6)	41	(2.8)
むし歯科	25	(1.8)	38	(2.6)
歯周科	91	(6.6)	36	(2.5)
口腔外科(病態系)	42	(3.1)	27	(1.9)
補綴科(咬合・義歯)	28	(2.0)	20	(1.4)
(現咬合・義歯補綴科)				
予防歯科	7	(0.5)	10	(0.7)
補綴科(クラウン・ブリッジ)	20	(1.5)	7	(0.5)
(現クラウンブリッジ補綴科)				
矯正歯科	6	(0.4)	3	(0.2)
歯科放射線・口腔診断科	1	(0.1)	1	(0.1)
歯科麻酔科	1	(0.1)	2	(0.1)
総合歯科	1	(0.1)	5	(0.3)
顎関節外来			1	(0.1)
空白	5	(0.4)	2	(0.1)
	1,377	(100)	1,452	(100)

表3. 院内紹介状で紹介先歯科系診療科等の指定がなく「歯科(紹介)」あるいは記載なしであった患者の受診診療科決定過程

受診診療科決定過程	平成22年度		平成23年度	
	患者数(人)	割合(%)	患者数(人)	割合(%)
医療支援歯科治療部が直接対応した。	(未設置)		49	12.6
曜日割の院内紹介受入当番診療科が対応した。	216	51.7	197	50.6
総合診断室(予診室)で適切な専門診療科が検討され振分された。	104	24.9	87	22.4
年齢・紹介内容等から専門診療科が明白であり直接該当診療科が対応した。	26	6.2	33	8.5
特定の歯科医師の指名はあり、その歯科医師の所属診療科が初動対応をした。	23	5.5	9	2.3
「歯科(紹介)」として紹介されたが、科等間連携・事前連絡等で紹介先は明らかであり、当該診療科が直接対応した。	17	4.1	2	0.5
午後当番医が対応した。	10	2.6	6	2.6
再来初診患者で、紹介内容が既受診診療科の専門分野と同一であったため、当該診療科が対応した。	9	2.4	4	1.0
その他	2	0.5	0	0
不明	11	2.2	2	0
	418	100	389	100

ら診療科等への紹介で668件（年間院内紹介件数の48.5%）を占めた。平成23年度も同様に周術期管理センター（歯科部門）が最も多く、次に平成23年度に新設されたスペシャルニーズ歯科センター（旧第1総合診療室）209件（年間院内紹介件数の9.6%）、医療支援歯科治療部174件（年間院内紹介件数の8.8%）の順であり、これらの診療科等への紹介で715件（年間院内紹介件数の49.2%）を占めた。

4. 具体的な歯科系専門診療科等の名を挙げずになされた医科系診療科等からの院内紹介に対する紹介日の対応状況

平成22及び23年度において、院内紹介状で紹介先歯科系診療科等の指定がなく「歯科（紹介）」あるいは記載なしであった患者（平成22年度：418件、平成23年度：389件）の初動対応状況を表3に示す。

平成22及び23年度において、曜日割の院内紹介受入当番診療科が初期対応を行ったケースは、それぞれ216件（紹介先歯科系診療科等の指定がない紹介のうち51.7%）と198件（紹介先歯科系診療科等の指定がない紹介のうち50.6%）であり、減少傾向を示した。

総合診断室（予診室）で適切な専門診療科が検討され振分されたケースは、平成22年度は104件（紹介先歯科系診療科等の指定がない院内紹介状の24.9%）、平成23年度は87件（紹介先歯科系診療科等の指定がない院内紹介状の22.4%）と減少傾向にあった。

考 察

岡山大学病院歯科系診療科等は、歯学部を有する大学の特徴を発揮して各専門診療科で専門性の高い高度な歯科医療を提供し、多くの患者を集めてきた。本調査研究によって、平成22及び23年度の年間初診件数は、約10,000件に上り、そのうち医科系診療科等からの院内紹介によるものは平成22及び23年度それぞれ1,377件及び1,452件と増加傾向を示し、年間初診件数の約14%を占めることが明らかになった。本院歯科系診療科等は、医科と連携した歯科治療を行うことで医療の質の向上に貢献する役割が求められていること

が窺えた。平成24年度からは診療報酬改定によって周術期口腔機能管理料が新設され、医科歯科連携を促進する制度が充実してきたことから、今後より一層、医科から歯科への院内紹介患者数は増加すると考えられるため、歯科系診療科の受け入れ体制の強化が望まれる。

紹介元診療科は、平成22及び23年度で同様の傾向を示し、周術期管理センター（肺移植を除く呼吸器外科手術及び消化管外科の食道手術）、耳鼻咽喉科、心臓血管外科、及び循環器内科からが多かった。これらの科は、口腔の問題が原因で周術期の合併症を起こす可能性の高い疾病を扱う診療科であり、術後感染予防や経口栄養摂取の促進を期待し、積極的に歯科系診療科等への院内紹介を行っていると考えられた。平成22年度は、周術期管理センター（歯科部門）への紹介数は、周術期管理センター本部から歯科系診療科への紹介数よりも57件も多かったが、平成23年度はその差は3件とほぼ同数になった。平成22年度は周術期管理センター本部が扱い連携している以外に、周術期管理を要する医科の外科系診療科が独自に周術期管理センター（歯科部門）宛に紹介を行っていたと考えられ、平成23年度はそれらが医療支援歯科治療部宛に紹介されたと考えられる。さらに、平成22及び23年度ともに医科系のほぼ全ての診療科から歯科系診療科等へ紹介されており、様々な医科治療を行う中で口腔内に起こった偶発的な事象への対応も常に求められていることが明らかになった。

医科系診療科等から歯科系診療科等に紹介した際の宛先として、具体的な歯科系診療科を挙げず、電子カルテ上の院内紹介テンプレートで「歯科（紹介）」を選択して紹介がなされるケースは、平成22年度418件（年間院内紹介件数の30.4%）から平成23年度389件（年間院内紹介件数の26.8%）に減少した。一方で、平成23年度からは新設された医療支援歯科治療部宛の紹介が174件（年間院内紹介件数の12.0%）あった。医科系診療科等の治療遂行上、ルーティンに求められる口腔内の管理に対して、医療支援歯科治療部が受け入れ先として機能しつつあることが示された。

平成23年度における医科系診療科等から歯科系診療科等への院内紹介の宛先は、周術期管理センター（歯科部門）宛331件（22.8%）、スペシャルニーズ歯科センター宛209件（年間院内紹介件

数の14.4%)、医療支援歯科治療部宛174件(年間院内紹介件数の12.0%)であり、合わせて715件(年間院内紹介件数の49.2%)を占めた。岡山大学病院では平成23年度に歯学部の改組が行われ、チーム医療、医科-歯科連携の促進を目的として医療支援歯科治療部(周術期管理センター(歯科部門)含む)、スペシャルニーズ歯科センターが新設された。これらの部署宛の患者は院内紹介患者の約半数を占めたことから、新設部署が当初の目的通り院内紹介患者を受け入れる体制が徐々にできつつあることが示された。

平成23年度において、紹介先歯科系診療科等がなく「歯科」宛、あるいは記載なしであった患者に対して医療支援歯科治療部が対応したものは49件(12.6%)あった。一方で、総合診断室(予診室)で適切な専門診療科が検討され振分けられたものは、平成22年度216件(紹介先歯科系診療科等の指定がない紹介のうち51.7%)、平成23年度197件(紹介先歯科系診療科等の指定がない紹介のうち50.6%)と減少傾向であったものの約半数あり、1日平均1件程度あった。平成20年度から曜日割の院内紹介受け入れ当番診療科体制が運用されており、平成23年度に医療支援歯科治療部が稼働し始めてからも相当に機能し各歯科系専門診療科は専門外の診療内容として対応していたと考えられる⁷⁾。

医療支援歯科治療部は、院内の医療連携において歯科側の窓口・拠点を担い、将来的には医科系診療科等からの院内紹介を一元化して受け入れるという画期的な構想となっている。これが実現すれば、各歯科系診療科等が各々の専門領域の歯科医療を展開する環境が整うと考えられる。一方、医科系診療科等から歯科系診療科等への院内紹介件数は年間1,400件程度であり、岡山大学病院歯科系における初診患者の約14%を占め、今後さらに増加すると考えられる。特に周術期管理センター本部では、平成25年度後半から数年で全身麻酔下で手術を受ける全ての患者(年間5,000~6,000件程度)に介入することが決まっており、準備が進められている。これら全てに対応するには相当なマンパワーとハード面での整備が必要であると考えられる。今後、医科系診療科等から院内紹介への初動対応状況がどのように変化していくか、引き続き調査課題としたい。継続的に比較検討することで、医科系診療科等からの院内紹介

に一元化して対応する窓口が機能するために必要なハード及びマンパワーがより明確になるものと考えられた。

結 論

岡山大学病院歯科系診療科等の初診患者件数のうち、医科系診療科等からの院内紹介患者件数は、平成22年度は1,377件で全初診患者の14.3%、平成23年度は1,452件で全初診患者の14.2%を占めていた。岡山大学病院歯科系診療科等の役割の一つとして、医科系診療科等からの院内紹介患者への対応が一定程度あり、その数は増加傾向にあることが明らかとなった。

院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の紹介先としては、平成23年度から医科-歯科連携の促進を目的に新設された医療支援歯科治療部(周術期管理センター(歯科部門)含む)とスペシャルニーズ歯科センター宛のもので715件(年間院内紹介件数の49.2%)を占めた。院内紹介患者の歯科側の受け入れは一元化の方向に向かっており、歯科側の窓口としてある一定の機能を果たしたことが示された。

今後も増加すると予測される医科から歯科への院内紹介患者を一元化して受け入れるためには、歯科側の受け入れ態勢をハード及びマンパワーの面から更に増強し、医科側に分かり易く示す必要性が示唆された。

謝 辞

本調査研究の遂行に当たっては、岡山大学病院医事課 歯科担当係 高山 望様、草木恵子様、定金亜希子様、砂野珠美様、陶山知子様のご協力頂きました。心より感謝申し上げます。

本調査研究の一部は、平成23-25年度文部科学省「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」採択事業(岡山大学病院ペリオ人材育成研修センター)補助金及び平成25年度文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成金)(若手研究(B))「周術期における効率的な口腔機能管理の検討(25862082)」によって行われた。

参考文献

- 1) 厚生労働省：チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会 報告書）. 2010.
- 2) 厚生労働省：チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集（チーム医療推進方策検討ワーキンググループ：チーム医療推進会議）. 2011.
- 3) 厚生労働省：平成24年度診療報酬改定について. http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuuhoken/ir
- 4) 岡山大学病院：岡山大学病院医療支援歯科治療部内規. 2010.
- 5) 曾我賢彦：病院医療支援を目的とした口腔の管理学および専門診療分野の必要性—周術期医療への歯科的介入を例として—. 口腔リハビリ誌 24) 1), 1-10, 2012.
- 6) 曾我賢彦, 藏重惠美子, 山中玲子, 吉富愛子, 森田学：岡山大学病院歯科系診療科等が医科系診療科等から受けた院内紹介とそれに対する初動対応—平成22年度を対象とした実態調査—. 岡歯誌, 31) 2), 67-71, 2012.
- 7) 岡山大学病院歯科総合診断室運営委員会：院内紹介対応マニュアル（医科入院中の歯科外来受診）. 2008.

